



しまね

いまいまねっと

2016

1 月号

(公財)ふるさと島根定住財団

(しまね県民活動支援センター)

<http://www.teiju.or.jp/>

地域づくり応援助成金
公開プレゼンテーション審査会 開催！

それぞれの地域で、これからどんな取り組みがなされるのか、自分たちにはどんなことができるのかを考えるきっかけに、関心のある方はぜひお越しください。入退場自由、事前予約不要です。

平成 28 年 2 月 9 日 (火) 10:00~16:30 ●入場無料

松江テルサ4階大会議室 (松江市朝日町478-18)

10:00~10:10 開会・説明

10:10~14:50 【公開】 プレゼンテーション (途中昼休憩 1 時間)

※各団体プレゼン 10 分・質疑応答 10 分

14:30~15:40 【非公開】 審査委員による審査

15:40~16:10 【公開】 審査結果発表・講評

※時間は前後することがあります



《今回の審査案件》

(順不同)

	団体名	地域	事業内容
公益重視型	NPO 法人 ディオッサスポーツクラブ	出雲市	スポーツ現場の安全安心プロジェクト
	かなやまようがいさん 金山要害山保存会	松江市	金山要害山祭りの開催をきっかけにした、地域のつながりづくり
	(一社) 奥出雲地域活性化プロジェクト	奥出雲町	たたらによる地域交流事業
	大根島の農漁業を考える会	松江市	ウィーラブ大根島プロジェクト地域 (荒廃耕地再生事業)
	おもてなし母ちゃん	雲南市	四季折々野菜・山野草を用いたおもてなし弁当
	吉永 GG 会	大田市	吉永城址公園整備と地域のふれあい活動推進
	青空市実行委員会	江津市	伝える・届く！笑顔でつながる地域の魅力。みんなで「青空市」へ行こう！！
経済振興型	出雲民藝協会	出雲市	島根独自の文化である”民藝”を起点とした地域への愛着の育成と地域経済の活性化



助成金情報

<p>平成28年度 地球環境基金 期 ~1/13(水)必着 持参の場合は午後6時まで</p>	<p>対 特定非営利活動法人、一般社団法人、一般財団法人、公益社団法人、公益財団法人、任意団体（ただし次の条件を全て満たす団体に限る） ・定款、寄付行為に準ずる規約を有すること ・団体の意思を決定し、要望に係る活動を執行する組織が確立していること ・自ら経理し、監査することができる会計組織を有すること ・活動の本拠としての事務所を有すること ・活動の実績等から見て、要望に係る活動を確実に実施できると認められること</p> <p>金 50～1,200万円（1年間）※助成額はメニューにより異なります。 問 (独) 環境再生保全機構 地球環境基金部地球環境基金課 Tel: 044-520-9505 Fax: 044-520-2192 http://www.erca.go.jp/jfge/</p>
<p>平成28年度 公益信託 しまね女性ファンド助成事業 期 ~1/15(金)当日消印有効</p>	<p>対 島根県の女性たちが中心となって活動している民間の団体やグループ。構成員はおおむね10名以上で、その半数以上が女性であることが目安。営利法人や行政機関は対象外。 金 対象経費の2/3を助成（1万円単位で上限50万円） 男女共同参画社会づくりの普及・啓発活動は対象経費全額を助成（1万円単位で上限10万円） 問 公益信託しまね女性ファンド事務局 Tel: 0854-84-5514 Fax: 0854-84-5589 http://www.asuterasu-shimane.or.jp/swc/jigyofund/</p>
<p>住まいとコミュニティづくり活動助成 期 ~1/20(水)必着</p>	<p>対 営利を目的としない民間団体（特定非営利活動法人、法人化されていない任意の団体など）。 金 ・既存の施設を活用して地域の活性化を図る事業 上限200万 ・その他「住まいとコミュニティづくり」に関わる活動 上限100万 問 (一財) ハウジングアンドコミュニティ財団（助成係） Tel: 03-6809-1408 Fax: 03-6809-1438 http://www.hc-zaidan.or.jp/</p>

募集情報

<p>第4回「日経ソーシャルイニシアチブ大賞」募集 期 ~1/31(日)</p>	<p>対 2015年度中に活動実績があり、2016年度以降も事業の継続を予定しているソーシャルビジネスへの取り組み。次の3つの要件を満たしている事業を対象とします。 社会性：社会的課題の解決を事業のミッションとしている。 事業性：ビジネス的手法を用いて継続的に事業活動を進めている。 革新性：新しい事業モデルや社会的価値を創出している。</p> <p>金 大賞：賞盾、賞金100万円、副賞 国内部門賞・国際部門賞・企業部門賞：賞盾、賞金50万円、副賞 新人賞・クリエイティブ賞・地域賞：賞盾、賞金25万円、副賞 ※大賞・新人賞・クリエイティブ賞・地域賞は全応募候補の中から選出 問 日経ソーシャルイニシアチブ大賞事務局 担当：若林・滝川 （日本経済新聞社デジタルビジネス局内） E-mail: nsia@nex.nikkei.co.jp http://social.nikkei.co.jp/</p>
--	--

イベント情報

<p>島根県立ふるさと森林公園 緑の里山自然塾 春の七草粥と里山の餅つき 日 1/10(日)10:00～15:00 受付開始 9:30</p>	<p>春の七草についてその薬効も含めて学び、七草粥で試食します。また、杵つきで餅つきをしてぜんざいを楽しみます。散策できる服装でお越しください。雨天決行のため、雨天時は雨具をご持参ください。</p> <p>費 500円 定 25名（要申込） 場 島根県立ふるさと森林公園 森林学習展示館 問 NPO法人もりふれ倶楽部 担当：野田・宮崎 Tel/Fax: 0852-66-3586 E-mail: morifure@coffee.ocn.ne.jp</p>
--	---

※アイコンの説明

日 日にち **時** 時間 **場** 場所 **定** 定員 **費** 費用 **主** 主催 **期** 期日 **金** 助成金額 **対** 対象 **問** 問合せ先

報告

交流を広げました！

全国グリーン・ツーリズムネットワーク 山形大会参加報告！



第14回全国グリーン・ツーリズムネットワーク山形大会（同大会実行委員会主催）が10月29、30日と山形県内で開かれ、島根から田舎ツーリズム実践者や行政担当者ら7人が参加し、山形の取組み事例や全国の仲間との出会いを通して学びを深めました。

山形県内8会場であった分科会では、山形で実施されている農家民宿や教育旅行、食文化体験などが紹介されました。

全体会では、島根県出雲市出身で、「毎日が発見」編集長を務める片寄斗史子さんと、食事による若返りなどを説く医学博士、南雲吉則さんによる対談や、青木辰司大会実行委員長によるオープニングトークなどがあり、「グリーン・ツーリズムの品質向上を目指す中間支援組織の育成・強化」などを打ち出した大会宣言が採択されました。

全国から約200人の参加があり、グリーン・ツーリズムに関する情報交換や交流の輪が広がりました。

来年度は愛媛県で開催予定です！！

＜島根からの参加者の声を一部ご紹介します！＞

- ◎農家民宿組合の発足のきっかけが聞けて良かった。民宿・民泊を進めるためには（料理が好きな）お母さんたちを巻き込むべきだと感じた。
- ◎民泊は、都市生活者にとっては独特のインパクトを持った体験になると思う。今後は何らかのテコ入れをして掘り起こしていきたい。
- ◎民泊でのおもてなしの心がすごく良かったので見習いたい。海の体験メニューの発見があった。
- ◎豊富な農水産品があり、地域の人も自信を持って紹介されていたことが印象に残った。情報交換できた方々と今後交流を深めていきたい。

★10周年記念★ NPO法人くらしアトリエ

「森の中の、 anniversary 10周年祭」

11/20、21に
開催されました



雲南市大東町畑鶴で空き家を改装した事務所を構えるNPO法人くらしアトリエ。2005年に任意団体に活動をスタート（2007年法人格取得）し、今年で10周年を迎えられました！

今回のイベントでは、これまでの活動が分かる展示や手作りの雑貨、デザインを担当されたパンフレットなどが勢ぞろい！事務所は隅々までかわいらしく、細やかな気配りが施されています。1階の図書室ではドリンクを飲みながらゆっくりと読書も可能です。

今後も畑鶴地区の憩いの場でありつつ、「ていねいな暮らし」の発信活動に期待します☆
※冬季（12～3月）と8月はお休みです

<http://www.slow-slow.com/>



今月のキーワード 「寄付金」

今月は虎の巻ヒント集から、寄付金を集めるための考え方をご紹介します。

寄付集めの前の準備（マナー）として、まず「何をするために寄付が必要なのか」を相手にきちんと示す必要があります。インターネットで寄付を呼びかけるのであれば、インターネット上での情報発信が必須ですし、対面で寄付をお願いするのであれば、読み手の負担にならないよう工夫した資料を用意する必要があります。島根県ではFAAVO 島根や、しまね社会貢献基金といった寄付の受け皿としての基盤整備を行っています。

NPO 虎の巻はこちらからダウンロードできます。
県民活動応援サイト 島根いきいき広場
<https://www.shimane-ikiiki.jp/>

NPOマネジメントラボ代表 山元圭太さんは、寄付集めを考えると、「どうやって集めるか」という「手法」から考える団体がとても多く、そのことが自分たちの事業を混乱させているとおっしゃっていました。寄付を集める前にすべきことは「Why」＝「何のために」を明確にすることです。自分たちはどんな課題を解決しようと思っていますか？その解決のシナリオは明確になっていますか？寄付や資金を集めるまえに、下記の順番にそって、具体的に団体内で話し合みましょう。

ファンドレイジングの「5W1H」プランニング

Why（何のために？）

- ・「ミッション」は何？
- ・問題解決のシナリオは明確？
- ・成果を追求する覚悟はある？

What（何を集める？）

- ・ミッション達成に向けて必要な「経営資源」は何？「ヒト」は？「モノ」は？…

How（どうやって集める？）

- ・具体的な調達施策は何か？

When（いつ集める？）

- ・ミッション達成に向けた「中長期計画」は明確？必要な「支出」・「収入」は？

Where（どこから集める？）

- ・ターゲットにアプローチできる「マーケット」はどこか？

Who（誰から集める？）

- ・各財源別の「ターゲット」は明確か？

参考：山元圭太氏ブログ「ヤマゲンメモ」
(<http://yamagenmemo.blogspot.jp/2012/11/no20.html>)

島根で 頑張る人

バリアフリーではなく、ユニバーサルを

今年5回目が開催された「ひとまる MASUDAオープン車いすバスケットボール大会」。全国のチームが参加し、大手企業も含め複数の企業や自治体が後援・協賛するこの大会には、一つ特徴がある。車いすに乗って競技する車いすバスケットボールは、一般的に障がい者がプレイヤーとなるが、この大会では、障がい者もそうでない人も混合でチームを編成しているのだ。大会実行委員会の三光ビル管理株式会社 尾崎裕一郎さんは、「目指すのは『バリアフリー』ではなく『ユニバーサル』です」と話す。

同社は益田運動公園の指定管理者であり、車いすバスケットボールの教室や出張体験講座（小中学校等が対象）を主催している。これらを発案したのが尾崎さんだ。以前パラリンピックを観戦し「人の無限の可能性を感じた」という尾崎さんは、障がいをハンディと捉えず、ルールや道具を変えることで誰もが参加できる環境が作れるのではと考えるようになったという。

尾崎さんは、高校時代の恩師で養護学校での勤務経験もある澤江佑三（さわえゆうぞう）さんに声をかけ、車いすバスケットボールの教室と出張体験講座を始めた。障がいのある選手と同じ条件で子ども達に車いすバスケットボールを楽しんで上達してもらい、選手の努力を実感してもらおうと考えたのだ。実際に参加した子どもたちからは「楽しかったのでまたやりたい」「障がいがあっても色々なこ

とができるようになった」という感想が多く寄せられた。やがて「チームを作って試合をしたい」という参加者が増え、大会を開催することになった。

参加者と会場（益田運動公園）こそ確保できたが、大会実現は簡単ではなかった。開催には費用がかかるし、会場の設備は古く、バリアフリー化が進んでおらず、ボランティアスタッフの協力が必要だった。そこで、企業に何度も足を運んで協賛を依頼するとともに、市内の学校等に声をかけ協力を募った。努力を重ねてついに実現した大会は、徐々に参加者やボランティアが増え、現在では受入可能な人数を超えるほどの参加申込がある状況だ。

以前の参加者が進学で地元を離れてからも大会を手伝ってくれたり、教室に通う子どもの親が公式審判の資格を取得するなど、車いすバスケットボールは着実に根付き始めている。そんな中、益田市は運動公園に新たに障がい者用トイレを設置した。尾崎さんたちの取組がまちを動かした、象徴的な出来事の一つといえるだろう。

普段の業務との両立は決して楽ではない。だが尾崎さんは、「障がいのある人が生きやすい社会は、そうでない人にとっても安心できる社会のはず」と考え、これからも活動を続けるつもりだ。目下の悩みは県外から出張体験講座の依頼が増え、なかなか対応できないこと。「火は灯すのも難しいが、燃やし続けるのはもっと難しい。でもだからこそ続けなければ」と話す尾崎さんの笑顔は、心から楽しそうに輝いていた。（M）



澤江さんと尾崎さん。チームワークは抜群。



三光ビル管理株式会社

おさき ゆういちろう
営業部長 尾崎 裕一郎さん

昭和38年生まれ、益田市出身。芸術大学卒業後、カメラマンとして長年写真スタジオを運営する傍ら、福祉施設で障がい者向けの写真教室を開催してきた。趣味の楽器演奏でも障がい者とセッションし、「彼らの持つ感性に何度もハッとさせられた」経験がある。平成16年から三光ビル管理株式会社に勤務。現在は営業部長を務めながら、同社の障がいのある社員のための相談窓口として、障がい者職業生活相談員も兼任する。

三光ビル管理株式会社では、障がいのある従業員が全体の8%を占め、清掃業務等に従事し活躍している。

主な活動内容

週1回車いすバスケットボール教室を開催する他、県内外での出張体験講座、毎年9月に車いすバスケットボール大会を開催。今年度は9月13・14日に開催され、全国から12チームが参加した。三光ビル管理株式会社は、平成21年度県民いきいき活動支援助成金（ジャンプアップ事業）採択団体。

スタッフ後記

10周年を迎えた中国ろうきんNPO寄付システム。今回の募集で過去最多の申請をいただきました。ご応募いただいた法人の皆様ありがとうございます。審査会を経た後、1月下旬に結果を通知させていただきます。

歳が瀬になり今年の疲労も大分蓄積されている頃ではないでしょうか。もうひと踏ん張りし、年内中にやっておくべきことはこなし、年末年始には新たな年に向けて心身共に整えていきましょう。（T）

松江
事務局

〒690-0003
松江市朝日町478-18 松江テルサ3階
TEL (0852)28-0690 FAX (0852) 28-0692
E-mail: shimane@teiju.or.jp

お知らせ

交流サロン展示イベント情報

- 定住財団松江事務局の交流サロンで、展示イベントを開催します。
- 県民いきいき活動促進キャンペーン 県内NPOの活動を紹介しています。（開催中～12月28日まで）
- 写真展 関東に拠点を持つ個人の方が撮影した、山陰の魅力ある街並みや建物の写真を展示します。（1月12日～2月19日）
お気軽にお立ち寄りください！

- 県内NPO法人数 276 【H27. 11. 30現在】
（内 認定NPO法人数 6、仮認定NPO法人数 1）
- 新設NPO法人数 1 ■解散NPO法人数 1（H27.11月分）
- しまね社会貢献基金登録団体数 49
- だんだん認証レベル取得団体数 40（内 レベル2 27）

〒697-0034
浜田市相生町 1391-8 シティパルク浜田 2階
石見産業支援センター「いわみびらっと」内
TEL (0855)25-1600 FAX (0855)25-1630
E-mail: iwami@teiju.or.jp

石見
事務所